

第 47 回 釜ヶ崎越冬闘争への協力要請

今年も越冬闘争の準備が始まりました。

この間、西成特区構想の中で進められてきたセンター建て替え工事は「まちづくり検討会議」が設立され、「あいりん地区」の各町内会、センター上階の市営住宅自治会、商店会、簡宿組合、社会福祉協議会、労働組合、労働者支援団体などの参加の下、月 1~2 回のペースで意見交換が進められています。

これは大阪市行政当局によって長い間「仮住まいの流れ者」扱いされ、「住民」として認められてこなかった釜ヶ崎住民を市民、住民として認知しなければならなくなったことを認めたという意味では画期的なことであり、多くの仲間がこの議論にかみこんでいけるような仕組みが求められています。

しかし、もう一方ではしつこいほどの大阪都構想実現に向けた動きであることも事実であり、新自由主義政治による「効率的な民営化」の名のもとに市民の財産を売り渡す攻撃であり、私たちの第二の故郷を巨大資本に売り渡すことにもなりかねません。

大阪市は市営地下鉄や市バスのみならず、「命の水」水道事業まで民間企業に売り払おうとしています。

こうした状況の中で耐震強度不足から建て替えを余儀なくされたあいりん労働センターの再建をめぐる、商業施設としたい巨大資本と、「再開発」で追い出される可能性をひしひしと感じている労働者、戸惑う地域の商店主・ドヤ主たちのせめぎ合いが始まっています。

今年の越冬闘争もこうした地域をめぐる激動の中で闘われます。失業・野宿の仲間たちが排除されることは絶対に認めることは出来ません。

私たちは「釜ヶ崎に行けば何とかなる」という想いに応え続けてきたこの街の良さ(多くの人たちの想い)=伝統を守ることによって、今この街に暮らす仲間と共にこれからもたどり着くであろう仲間たちを守っていければと思います。

今年も大阪全域を視野に入れながら、新シェルターの臨時宿泊所と連動した「地域での越冬闘争」を創っていきたいと思っています。

これまで同様、皆様の温かいご支援をお願い致します。

また、2016年12月28日から2017年1月4日までの越冬期間中の現場でのご支援・ご協力も宜しくお願い致します。